

発達段階に応じた 詩の学習

詩を読む学習は、低学年・中学年・高学年において、それぞれ次のような点を重視して進めることが考えられます。

低学年では、五七の音数や繰り返しが使われている、リズムよく読める詩にふれます。それらを何度も声に出して読み、日本語の言葉のリズムや響きに慣れていくことが大切です。詩の内容に合わせて動作化してみたり、立って読んだり座って読んだりするなど、いろいろな読み方を体験して楽しく学びます。さらに、五七の音数や繰り返しは、詩にリズムを生み出すことに、子どもたち自身が気づけるようにするとよいでしょう。この気づきは、詩を創作する学習の際にも活用することができます。

中学年以降は、少しずつ内容を読み深める詩を扱っていきます。中学年では、詩の構造を意識して学べるとよいでしょう。

例えば次のような構造が考えられます。

2連の詩 〈対比の構造〉

例……阪田寛夫『夕日がせなかをおしてくる』

第1連 夕日が「ぼくら」に呼びかけている。

第2連 「ぼくら」が夕日に呼びかけている。

→対になっている二つの連の違いを読むと、構造を捉えることができる。

3連の詩 〈ホップ・ステップ・ジャンプの構造〉

例……金子みすゞ『積った雪』

第1連 上の雪は寒いだろうな。

第2連 下の雪は重いだろうな。

第3連 中の雪は寂しいだろうな。

→第3連で「寂しい」という感覚があらわれ、イメージが飛躍している。

4連の詩 〈起承転結の構造〉

例……金子みすゞ『転校生』

第1連 転校生と友達になりたいと思っている。

第2連 昼休みに、その子は桜にもたれていた。

第3連 その子にどんな言葉で話すか迷っている。

第4連 帰りには、他の友達ができていた。

→時系列で一つのストーリーが展開されている。

あおぴーのまなびのぽけっと

昭和学院小学校 校長
あおき のぶ お
青木 伸生

全ての詩がこれらの構造にあてはまるとは限りませんが、連のつながり方を学ぶと、構造を意識して詩を読んだり、作ったりすることができるようになります。

高学年では、より心情的な詩(叙情詩)を扱います。物語文でも学んだ、比喩や体言止めなどの表現技法や色彩表現が出てきたり、詩全体が情景描写になっていたります。それらを読み深め、作者の思いや話者の心情を読み取ることが大切です。

ポエトリーマッチ

こんなことも
できるよ

青コーナーと赤コーナーに分かれ、1対1で行う詩の朗読大会です。主に中学年以降、アウトプットの学習活動として活用できます。

進め方

- ① 先攻、青コーナーが詩を読む。
- ② 後攻、赤コーナーが詩を読む。
- ③ 聞き手の子どもたちが、どちらの詩がよいか判定し、一斉に青か赤の旗を上げる。
→上がった旗の多いほうが勝ち。

- 読み手は、自分で作った詩（一つか二つ）を朗読する。時間は3分以内だが、短くてもよい。
- 聞き手は声だけを受け取り、「読み手らしい」「共感できる」「楽しい」など自由な観点で判定する。

いろいろな詩にふれ、構造や自分なりのリズムをつかんだうえで、授業や家庭学習で少しずつ詩を作りため、実践できるとよいでしょう。

Vol.
15

小学国語通信

教育出版

ことばだより KOTOBADAYORI



国語編集部が選ぶ こんなときに読みたい 詩 6 選

学期始めに扱うことの多い詩。今回、国語編集部ではさまざまなシチュエーションを想定し、そのときどきに読みたい詩を選んでみました！

一日の終わりに……

日日草

「今日もまた一つ
うれしいことがあった」

星野富弘

出典『鈴の鳴る道〈花の詩画集〉』（偕成社）

どんな一日にもたくさんある「平凡なこと」の大切さを感じられます。



友人を想って……

ありがとう

「戦えば戦うほど
相手が大切に思えてくる」

みやもとおとめ

出典『笑顔のリレー』（たんぼぼ出版）

高校時代の部活動など、友人とともに同じ目標に向かって過ごした青春の日々が思い出されます。



恋人を想って……

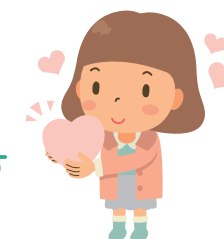
大すき

「遠くに見えたらワクワクします
近くに来たらドキドキします」

小泉周二

出典『誕生日の朝』（銀の鈴社）

初恋の甘酸っぱい気持ちや大好きな恋人を思い浮かべながら読んでみませんか？



母を想って……

かぜのなかのおかあさん

「いつでもいまが このままで
つづいてほしい おかあさん」

阪田寛夫

出典『てんとうむし』（童話屋）

大人になっても、親を思う気持ちは変わらないんだと感じられます。



気合いを入りたいとき

自分の感受性くらい

「自分の感受性くらい
自分で守れ」

茨木のり子

出典『日本語を味わう名詩入門 16 茨木のり子』（あすなろ書房）

編者 萩原昌好 画家 藤本将

自分自身を叱咤激励したいときに読んでみてもよいかもしれません。



卒業の日に……

その笑顔が……

「別れるのが
ちょっと悲しい気持ちです」

小海永二

出典『日本現代詩文庫 9 小海永二詩集』（土曜美術社）

卒業していく子どもたちへ、別れの寂しさを詩にのせて伝えてみませんか？



小学国語通信
ことばだより
KOTOBADAYORI

小学国語通信 ことばだより Vol.15 2025(令和7)年4月発行

教育出版株式会社 教育DX編集本部 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館 TEL:03-5579-6278(代表)

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。

言葉による見方・考え方を広げる詩の授業 —『いろいろな詩』『おおきな木』(4下)—

単元名・詩の工夫を味わおう！

目 標・さまざまな詩の表現技法や表記の工夫を見つけることを通して、感想や考えをもつことができる。

……〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)オ



文京区立小日向台町小学校
主幹教諭
まつ わき のぶ ゆき
松脇 伸之

はじめに

～詩の学習における言葉による見方・考え方～

詩は短い言葉で綴られることが多いため、一つの言葉からさまざまな想像を広げることができ、読み手による解釈の自由度が大きいと考えます。そのため、詩の学習では、同じ詩を読んでも「この気持ち、わかる！」という児童もいれば、「どういう意味？」と考える児童もいるでしょう。この点に詩の学習の難しさを感じることがあるかもしれません。しかし、それは今までの自分にはない言葉による見方・考え方を広げる大きなチャンスでもあります。詩に使われている言葉について、友達と解釈を交流する中で、自分の言葉による見方・考え方を大きく広げることができるというのは、詩の学習の大きな魅力といえるでしょう。

教材の特徴

本単元では『いろいろな詩』と『おおきな木』の二つの教材を取り扱います。

『いろいろな詩』には、一行詩を中心とした五つの短い詩が掲載されています。どの詩も題名にある食べ物や生き物の名前から想像を広げて読める詩です。『おおきな木』は、視覚的工夫がなされていることが大きな特徴です。また、方言が使われていることや行頭が統一されていることも特徴といえます。

これまで学習してきた詩にはない特徴をもつ本教材と出会うことで、児童がもつ詩に対するイメージを広げることが期待できます。

学習指導計画（1時間扱い）

	学習活動
導入 ↓ 展開 ↓ 終末	①「詩」に対するイメージを交流する。 〈めあて〉詩のおもしろさを見つけよう。 ②『ヘビ』『ミドリカナヘビ』を読み、詩の特徴を考える。 ③『ニンジン』『ケムシ』『ミミズ』を読み、言葉の使い方のおもしろさ考える。 ④『おおきな木』を読み、詩の工夫を考える。 ⑤ 想像を広げながら詩を音読する。 ⑥ 本時の学習を振り返る。

学習活動のねらいとてだて

①「詩」に対するイメージを交流する。

本教材で扱う詩のおもしろさを見つけやすくするために、既習の詩を電子黒板などに示しながら、「詩」そのものに対するイメージを交流します。私の学級では、「おもしろそう」というイメージをもつ児童もいれば、その反対のイメージをもつ児童もいました。また、「短い」「独特な表現が使われている」というイメージをもつ児童もいました。本実践では、これらの児童の発言をもとに「詩のおもしろさを見つけよう。」というめあてを立てました。

②『ヘビ』『ミドリカナヘビ』を読み、詩の特徴を考える。

児童の「詩」に対するイメージを広げるために、作品との出会わせ方を工夫するとよいでしょう。まずは題名のみを電子黒板などに示し、その後に本文を示します。初めて一行詩に出会う児童たちは、詩の短さに驚きを感じることでしょう。また、短い詩であっても言葉を丁寧に読むことで、作者の思いを想像させることができます。例えば次のような発問が考えられます。

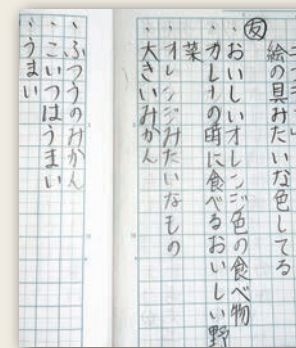
・「長い」と「長すぎる」の違いは？（『ヘビ』）

・「！」がある場合とない場合の違いは？（『ミドリカナヘビ』）

一行詩との出会いとこれらの発問を通して、一行という短さ、短い中にも作者の思いがこめられていることのおもしろさに気づかせることができます。

③『ニンジン』『ケムシ』『ミミズ』を読み、言葉の使い方のおもしろさ考える。

さまざまな考え方や言葉の使い方にふれさせるために、「ニンジン」「ケムシ」という言葉を提示し、「自分だったらどんな一行詩にするか」を考えさせます。そして、考えを友達と共有したり、本文と自分の考えを比較したりすることで、同じ言葉からさまざまな見方・考え方ができることに気づかせます。ここまでの活動を通して、児童は自然と、短い言葉から想像を膨らませる楽しさを感じられるでしょう。『ミミズ』は一行詩ではありませんが、「ミミズ→土の中→地球→その外側に宇宙」と連想ゲームのように言葉から想像を広げることで、作者の壮大な見方や表現のおもしろさに気づくことができます。

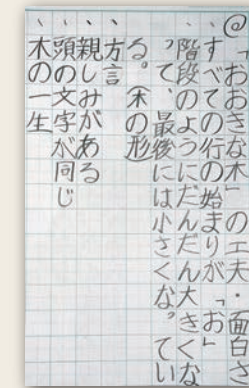


児童作例：「ニンジン」を題名にして考えた一行詩

④『おおきな木』を読み、詩の工夫を考える。

ひと目でわかる特徴的な形や行頭が全て「おお（おー）」で始まることなどの工夫に気づかせるため、ここでも教材との出会わせ方を大切にしたいです。電

子黒板を用いて範読に合わせて一行ずつ示すなど、工夫して提示すると効果的です。形や行頭の工夫に気づくことを通して、「詩」そのものに対するイメージを広げられると同時に、次の学習活動である音読に生かすこともできます。



詩の工夫に気づくことができる。

ノート例：児童が見つけた『おおきな木』の工夫

⑤想像を広げながら詩を音読する。

詩のおもしろさを味わわせるために、表現や表記の工夫を意識しながら音読に取り組ませます。まずは、ここまでの学習を通して培った各詩のイメージをもとに、詩の世界に合わせた音読の仕方を考えさせます。多様な解釈があって当然なので、無理に正解を求めるのではなく、ここでは「こういうイメージの詩だから、こういう感じで読もう」といった作品のイメージを生かした読み方の工夫が見られるとよいでしょう。

⑥本時の学習を振り返る。

導入での「詩」のイメージや本時のめあてを確認した後に、改めて「詩」のおもしろさとは何かを考えさせます。本時の学習を通して、詩にはさまざまな表現方法や言葉の使い方のおもしろさがあることに気づくことができるとよいでしょう。

おわりに

一つ一つの言葉を吟味し、自分なりの解釈をもつことは、表現することの意欲にもつながります。私の学級では児童の要望もあり、実際に自分たちで詩を作る学習を追加で一時間行いました。発展的な活動を設けることも、児童の学習意欲を高めるには効果的でしょう。

